



戦前期の布哇教育会編纂『日本語読本』

高田智和(国立国語研究所)

布哇教育会の『日本語読本』

- ハワイへの日系移民の増加とともに、日系移民の児童に対する日本語の教育が始まり、日本語学校が開設される。
- 1915年に布哇教育会が設立され、独自の日本語読本編纂が始まる。(当初は、日本の国定国語読本を使用していた)
- 布哇教育会は、戦前期に3種類の読本を編纂
 - 1917年 日本語読本尋常科用(全6巻) [第1期]
 - 1929年 日本語読本(全6巻) [第2期]
 - 1936年 日本語読本(全12巻) [第3期]
- 読本には、ハワイ日系社会のホスト社会への適合の段階と、同時代の日本の国定国語読本の影響などが観察できる。
- 読本は、当時のハワイ日系社会で想定された“規範的な日本語”の資料でもある。

全文テキストデータの作成・公開

- 第1期 日本語読本尋常科用 (底本:筑波大学附属図書館蔵)
https://www2.ninjal.ac.jp/textdb_dataset/hn17/
- 第2期 日本語読本 (底本:ハワイ大学マノア校図書館)
https://www2.ninjal.ac.jp/textdb_dataset/hn29/
- 第3期 日本語読本 (底本:ハワイ大学マノア校図書館)
https://www2.ninjal.ac.jp/textdb_dataset/hn36/

漢字含有率

| | 巻1 | 巻2 | 巻3 | 巻4 | 巻5 | 巻6 |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 第1期 | 7.5% | 11.9% | 18.8% | 25.7% | 38.2% | 43.7% |
| 第2期 | 3.6% | 9.6% | 17.0% | 20.2% | 26.9% | 29.1% |
| | 巻1・2 | 巻3・4 | 巻5・6 | 巻7・8 | 巻9・10 | 巻11・12 |
| 第3期 | 6.1% | 11.6% | 17.6% | 22.1% | 25.9% | 28.8% |

第1期と第2期・第3期との差が大きい⇒第二言語としての日本語教育用教科書への変遷を反映したものか。今後、詳しく分析していく予定。